



発行 公益社団法人  
武蔵野市シルバー人材センター  
編集 広報編集委員会  
武蔵野市中町 3-5-16  
電話 0422-55-1231 (代)  
URL <http://www.musashino-sc.or.jp/>



## 196(春年)号 もくじ

- 武蔵野市指定文化財の保存樹木たち…………… 1
- 新年度にあたって・森田会長  
新任・退任・退職のごあいさつ…………… 2
- 活動報告・安全管理委員会…………… 3
- 会員交流…………… 4～5
- 武蔵野・ぶらり・時空旅…………… 6～7
- 私のふるさと…………… 8
- 理事研修・むさしのSCトピックス…………… 9
- ひろば・新入会、お亡くなりになった方、編集後記 …… 10

## 武蔵野市の保存樹木たち

爽やかな新緑の季節になりました。武蔵野市には東京都指定天然記念物と武蔵野市指定天然記念物の樹木がたくさんあります。お散歩がてら寄り道はいかがでしょうか。  
大きく張った枝や樹皮に歴史と時代を感じます。

### ③井口家の大ツバキ (八幡町 3-7)



井口家の稲荷神社に、ご神木のように社に寄りそっている。毎年3月下旬から4月にかけて満開を迎える。樹高約7m、根本周囲2m、樹齢約280年と推測される。

### ②成蹊学園のケヤキ並木 (吉祥寺北町 3)



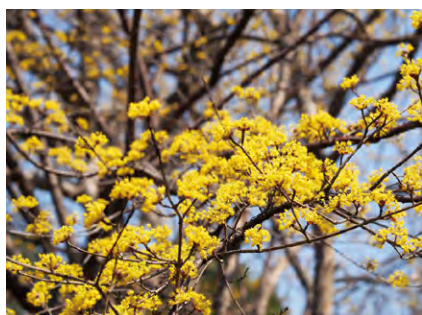
環境省・残したい日本の音風景100選  
東京都・新東京百景No.59  
大正13年(1924年)、池袋より移転した際に植栽された。高さ12mのケヤキ並木が約500mにわたって広がる。(撮影 津田 淳一様)

### ①吉祥寺旧本宿のケヤキ (吉祥寺本町 1-35-12)



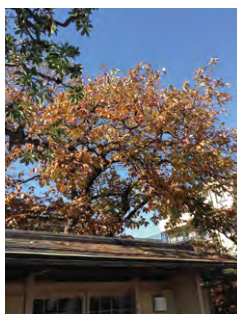
東京都指定天然記念物  
確かな記録はないが、旧吉祥寺村開村の頃(1600年代)に、屋敷林として防風用に植えられたといわれている。高さ約30.5m、目通り幹囲(めどおりかんい・目で見た幹の太さ)5.4m。

### ④井口家のサンシュユ (八幡町 3-8-3)



寛永3年(1750年)ごろに江戸幕府から褒賞として与えられたものと言われている。毎年3月上旬にはたくさんの黄色い花をつける。

### ⑤竹内家のカキの木 (境南町 3-11-3)



樹齢は約290年と言われている。現在も毎年秋には多くの甘い実がなる。

### ⑥杵築大社の千本イチョウ (境南町 2-10)



江戸時代の初期創建の社殿前にそびえる。樹高25m、根本の周囲は約4.2mで、主幹5本と支幹(ひこばえ)40数本によりなる。樹勢は現在もすこぶる旺盛で、秋には黄葉し社殿前は一面黄色いじゅうたんが広がる。



武蔵野市



## 新年度にあたって

会長 森田 良國

平成26年度の決算は、当初予測のマイナスとはならない見込みですが、これもひとえに会員皆様のご協力の賜物と御礼申し上げます。公共事業の減少はありましたが、民間企業や家庭の契約が予測以上に伸びた上に消費増税も加わって、25年度の実績程度に収まると予想しています。また、この傾向は新年度も続くものと期待しているところです。27年3月の理事会は、諸目標は控えめながら、努力目標を加味した「27年度事業計画・収支予算」が承認され、早い時期に皆様へお届けすることとしました。

新事業計画の構成内容は旧年度とほぼ同じです。

一方、外に目を転じますと日本は少子高齢化と人口減少が急速に進み、国としても介護等での外国人の滞在期間の延長を決めるなど労働力の確保に動いています。元気な高齢者にも地域貢献が期待されるのは自然の流れで、それは自分自身の生き甲斐ともなります。当センターも家事援助を始め市報配付やふれあい収集の他、「産前産後家庭の支援」、「不登校児童等の学習支援」等々新たな地域貢献に取り組んでいます。さらに

新年度は「介護保険制度の改定に伴う要支援事業」、「災害時避難行動要支援」などの対応が必要となっています。その大前提には会員の確保が必要です。そして、会員増と契約増は「車の両輪」の関係で、引き続き増加に取組まねばなりません。

収支予算は、補助金の減額や環境の厳しさもあり人件費等の各支出項目をできる限り抑えましたが、残念ですが今回も600万円程の赤字予算となりました。やがて春闘の結果が実感され、日本全体がもっと元気になる中での収支改善を期待しています。しかも、元気な高齢者の労働力を活用できる法的な整備が進み、シルバーの安定的な成長となることも今後の課題です。

平成26年度中は、賠償や傷害の事故が増加傾向でしたが、皆様が高齢期を少しでも元気で事故なく豊かに過ごされることも地域貢献につながります。センター理念のもと、会員・役職員一丸となってセンター発展に向かって邁進しようではありませんか。

## ご あ い さ つ

新任 事務局長 山中 洋次

4月より事務局長に就任いたしました山中洋次と申します。会員の皆様、理事の方々、事務局職員と触れ合うたびに、人の温かみを感じています。この温かみは、センターに関わってこられた方々の思いが作り出しているものと感じています。

これからの課題は多く、平坦な道のりではないでしょう。しかし、皆様の力を集めて、課題を一つ一つ解決していくことが武蔵野市シルバー人材センターの更なる発展に繋がると確信しています。お世話になります。よろしくお願いいたします。

退職 主任 村井 美保子

桜花爛漫の候、3月末日武蔵野市シルバー人材センターを定年いたしました。入社時は30歳代でした。あれから25年9ヶ月、思い返せば月日が経つのは本当に早いものです。会員の皆様に支えられ、お蔭様で大過なく今日まで勤め上げる事ができたと思っております。心から感謝申し上げます。

定年後もセンターに残り、引き続き頑張っております。これからもよろしくお願いいたします。

退任 常務理事兼事務局長 田部井 敏昭

このたび、2年10カ月お世話になりました武蔵野市シルバー人材センターを退任いたしました。

在職中は森田会長をはじめ理事・監事の皆様と様々な課題に取組み充実した毎日でした。特に適正就業に関わる国の指導で就業の見直しがあり、会員の皆様のご理解とご協力で乗り越えることができました。

今年度は派遣制度検討等の課題がありますが、会員の皆様の智力と活力で乗り切っていただきたいと思います。

センターの発展と会員の皆様が健康で活躍されますことをお祈り申し上げます。

退職 技能主任 糟谷 紀子

この度、18年間勤めたシルバー人材センターを退職いたしました。在職中に巡り合った会員の皆様、ご利用者の皆様、職員の皆様と触れ合えたことは、私にとってかけがえのない宝物です。

深く感謝するとともに、センターの益々のご発展と、皆様方のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。



## 活動報告

安全管理委員長 船戸 勲

### ○会員向け自転車無料点検

平成27年3月2日センターの玄関において、恒例の会員向け自転車無料点検が実施され、合計41台の自転車が持ち込まれ点検を受けました。

その結果、タイヤの摩耗やブレーキ等の安全装置に不具合があったものが多く、その場で直せる簡易的なものは修理・調整を行い、タイヤの交換など別途費用の掛かるものは、後日個人で直していただくようお願いしました。

昨年も就業途上の自転車事故が多数発生しています。交通ルールを守ることも大切ですが、日頃から手入れを怠らず、安全な自転車に乗るように心がけましょう。



### ○応急救護講習会

平成27年3月18日武蔵野消防署において、安全ニュースで参加者を募った応急救命講習会に応募された30名の会員の方が参加しました。



初めに統計データを使った説明がありました。救急車の出動要請は年を追うごとに増加傾向にあり、高齢者の係る事故のひとつは年末から年始にかけて集中して発生する、溺れる事故だそうです。場所は9割以上が住宅の浴室で、その主な原因はヒートショックと呼ばれる急激な温度差から起こる脳卒中や心筋梗塞によるものとのことです。そのほか高齢者の事故の9割が転倒・落下によるもので、発生場所は住宅の居室・寝室が5割以上を占め、防止策としては階段に手摺りを付けたり、ベッドに柵を設けたりすることだそうです。



つづいて応急救護の講習が行われ、AEDの取り扱い方法の説明の後、実際に人が倒れた場面で行う意識の確認作業からAEDの使用方法まで、会員も参加して消防署の方から実技指導を受けました。



○講習会終了後、建替えて新しくなった消防署内を見学して終了しました。

## 会員交流



27年度を迎え会員みなさま、如何お過ごしでしょうか？

当シルバー人材センターもここ数年、契約額・会員数の伸び悩みという状況で少しばかり低迷しています。当センターは、首都直下地震発災時の防災関係での役割増をはじめ要支援1・2級への仕事拡大、派遣事業への参入検討など重要テーマが目白押しです。

これら課題に取り組むためには会員の一致協力が欠かせません。正に当センターの理念でもある「自主・自立、共働・共助」の発揮のしどころです。それには会員同士が日頃から集い、語らい、お互いを理解しあいすることが必要ではないでしょうか。

こんな思いで「会員交流」を提案しております。今回は前々号194号で呼びかけ、前号195号で第一回を立ち上げた「書道会」のその後について以下ご報告方々ご案内いたします。

### 「書道会」の近況

「書道会」第一回は、今年1月29日(木)センターの講習会室で午後の2時から開催されました。初めての呼びかけで何人の方がお集まりいただけるかと心配しましたが、10名の参加者がありました。そのなかに老人施設やコミセン等で講座を受け持つ2名の“先生”格の方がいらっしやいまして、自然とこのお二人を先生に定期講座をしてほしいと衆議一決致しました。まず決まったことは、毎月1回、開催日を決めて開催しようとなりました。2月は10日(火)に、3月は10日(火)と回を重ねました。

3月の書道会では今後書道会を円滑に進めるため、以下の案がメンバーに提示され、全員の考え方を打ち合わせ、4月度例会では“会則”として決定する予定です。

#### <会員交流「書道会」の進め方(案)概要>

1. 目的・目標：親睦と各種作品展への出品を目指す
2. 役割・役員：世話人、先生、会計等の決定
3. 会費・経費：一ヶ月の参加費、筆・墨汁・紙は原則個人準備
4. 毎回の運営ルール：下記（カリキュラム）を各二か月開講  
第一講：書写書道の基本、漢字の書体について  
第二講：楷書の基本となる点や画、楷書の字形の整え方（1）  
第三講：楷書の字形の整え方（2）、筆順と許容される文字の例  
＊毎回先生よりの宿題と添削指導を実施
5. その他

・開講日は、毎月第2火曜の午後2時から4時まで、途中30分休憩

☆参加希望者は、境南町加藤までFAXにてお申し込みください。TEL & FAX 32-2574





## 今回の“参加者募集”

～新たな人生が開けます。奮ってご参加ください～

| 実施プラン                  | 実施日・時間                                                                                 | 内容・参加要領・費用など                                                                 | 主催者・申込先                                                                      |
|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| カラオケ会                  | ・5月23日(土)<br>中央コミセン<br>・5月23日(土)<br>西久保コミセン<br>・6月27日(土)<br>境南コミセン<br>＊いずれも13時半から17時まで | ・各回、先着15名締切り<br>・会費：300円<br>(注) 会場の予約都合で日程が変更になる場合があります<br>右記にお問い合わせください     | 中 央：立松正通<br>51-2550<br>(FAX 共)<br>西久保：大石 彰<br>53-3126<br>境 南：加藤之義<br>32-2574 |
| おしゃべり会                 | ・5月8日(金)<br>・6月24日(水)<br>＊いずれも14時から2時間程度<br>＊場所はセンター2階の講習会室です                          | <テーマ><br>5月：やり残したこと<br>6月：愛読書<br>＊定員：最大20名<br>＊チューター歓迎<br>＊資料あれば持参ください       | 境 南：加藤之義<br>32-2574<br>＊留守がちです<br>FAX大歓迎                                     |
| 散歩会<br>今回は<br>“新緑の高尾山” | 5月25日(月)<br>三鷹駅10時出発                                                                   | ・集合：三鷹駅改札9時50分<br>・解散：三鷹駅16時30分<br>(現地での解散も可)<br>・募集人員：15名程度<br>＊交通費、昼食代個人負担 | 緑 町：田中雅子<br>54-4463<br>または<br>境 南：加藤之義<br>32-2574                            |
| 書道会                    | 毎月第二火曜<br>14時～16時                                                                      | ・場所：センター2階講習会室または ホール<br>＊詳細は前ページ参照                                          | 参加希望者は直接会場へ                                                                  |

### 散歩会 2月18日(水)に新しくなった東京駅周辺に行ってきました

丸の内南口の天井のドームを見あげて、東京中央郵便局の上層階のKITTEへ。新しいもの、変わりゆくもの、変わらないもの…すべてが共存し、新しい東京の街へと進化しています。いつ訪れても背筋を伸ばして歩きたくなる街です。皆さんはどんな思いで歩きますか。



①丸の内南口・天井のレリーフ



②丸の内南口のレリーフの下で



③KITTEから東京駅を望む



④まだまだ工事の進む丸ビル周辺

※ “今さら人に聞けない” 時事用語は今回は休みます。

**武蔵野・ぶらり・時空旅****3**

吉祥寺北町 下谷 一廣

武蔵野の地に吉祥寺村、西窪村などの4か村が出現してほぼ一世紀が過ぎた安永3年（1774年）秋。太田南畝（<sup>なんぼ</sup>直次郎）が吉祥寺村を目指して牛込中御徒町の家を出立した。吉祥寺村で代々医者をしている安井玄達の次男市之丞が狂歌の弟子でその市之丞から「師匠、武蔵野で月を観るのも乙なものですよ」と言われ、粋で酔狂な太田南畝（当時は<sup>よものあから</sup>四方赤良と称していた）は早速弟子の話に乗ったのである。南畝はとにかく月が好きで、落合村（現・新宿）に多くの人を集めて観月会を催し、その後も高田馬場の茶屋「信濃屋」で70名もの人を集めて5夜連続の大規模観月会をも催しているのである。余談はさておき明け六つに家をでて南畝は半刻（1時間）もしないうちに内藤新宿まで来た。この時南畝は弱冠25歳であったが19歳の時に狂詩集「<sup>ねぼけ</sup>寝惚先生文集」を刊行し江戸で大評判をとり、狂歌師、文人として確固とした地位を築きその名は広く知られていたのである。新宿からは青梅街道を西に向かう。金木犀の香りや江戸郊外のきりりと引き締まった秋の気配を楽しみ



雑木林

ながら昼までには吉祥寺村に着けるだろうと思いながら歩いてゆく。

五日市街道と青梅街道が分かれる馬橋（杉並区）には市之丞が待っていた。

街道を二人で吉祥寺村を目指す道すがら市之丞が「御覧のようにこの辺りには水田も少しはありますがほとんどの百姓が江戸へ野菜を売りに行つて暮らしを立てています」などと解説付きで案内していく。南畝も「ここ荻窪村は、伊賀服部半蔵殿の知行地じゃ、市之丞知っておるか？」などと返し、街道沿いの村々を話のネタにして歩いてゆく。松庵村を過ぎて坂を上りきると道の先には<sup>うっそう</sup>鬱蒼とした木々に抱かれたような吉祥寺村が見えてきた。今回、太田南畝の吉祥寺村行きは、観月の目的もあったのであるが人一倍の好奇心の持ち主としては後学のために、自分の眼と耳で開村100年という節目を迎えた村を見ておきたかったのである。

最初に訪ねたのは名主の松井十郎左衛門の家である。杉や櫟、樫の大木、コナラ、クヌギに囲まれた300坪はあろうかという大きな屋敷であった。

あらかじめ市之丞を通じて訪いを入れておいたので、庭の見える座敷に通された。十郎左衛門から聞いた話は次のようなものであった。



ウツギの花



＊寛文4年(1664)に検地を受けてから100年になるが村の暮らしはなかなか苦勞が多く最初に移住してきた37軒からいまだに100軒を超えていない。

＊台地であるために風が強く水利も悪い。享保の時代になってようやく玉川上水からの農業用水路が出来て少し改善されたがまだまだ充分とは言えない。

＊強風対策としてどの家でも屋敷の周囲、畑の周囲に杉、檜、樺など様々な雑木を植え対応した結果100年経って“森あれば人家あり人家あれば森あり”と言われるまでになって少しは緩和されつつある。それで今では武蔵野の月は梢から出て梢に入るようになったという。(風対策として各戸で育てた雑木林は21世紀の現在では武蔵野市の財産ともなっているのである)

名主からの話は尽きることなく続いたが南畝と市之丞は街道に戻り、今度は治兵衛の家を訪ねた。ここはこの村の標準的農家で(間口20間、奥行634間)でそのうち屋敷は街道に面して150坪ほどである。治兵衛の話は次のようなものであった。

＊土地が痩せていて作物の育ちが悪く米や麦は出来ない。稗ひえとか粟といった雑穀とせいぜい根菜とかウドぐらい。カツカツの暮らしが続いてい



花ススキ

るがこの土地には愛着があるという。

＊畑にいるときに立ってられないような風がしばしば吹く、それをこの地の人は「赤ッ風」と呼び、この風が吹くと辺り全部が赤い砂埃でなんにも見えなくなるそうで、特に春先に多いという。

＊それでどこの家も畑の何方所にもウツギを植えて「赤ッ風」がでたらその陰にうずくま蹲ってやり過ぎすしかないという。

(注)「赤ッ風」 関東ローム層の火山灰に含まれる鉄分が酸化して赤くなり土や砂に含まれそれが強風で巻き上げられるのであろう。

村のお百姓の苦勞話は果てしもなかった。

南畝と市之丞は何とか話に区切りをつけて安養寺、月窓寺など4軒の寺にお詣りし、この夜は市之丞の実家・安井家で席が設けられて村人が集い宴となった。

翌朝の明け六つ南畝は帰宅の途に就いた。門口まで送りに出てきた市之丞に一帖の巻紙を渡した。そこには村人たちへの謝辞と狂歌が書かれていた。

“花ススキ ほうき千里の 武蔵野に  
まねかずとても 民のとどまる”

まさにこの時、南畝は21世紀の武蔵野の繁栄を見通していたのかもしれない。

余談ながらこの後、南畝は幕府人材登用試験である学問吟味で御家人として首席で合格。支配勘定に任用され、長崎奉行所に赴任したり、玉川上水の堤防の調査をする玉川巡視の役目に就いたり、役人としてもその才を発揮した。

## 私のふるさと

—— 第7回 鹿児島県種子島 ——

いぶすき ちから  
指宿 千勝

種子島

★指宿さんは鹿児島港から南へ40kmの洋上に浮かぶ種子島の出身である。種子島は面積約445km<sup>2</sup>、横浜市とほぼ同じ広さで、鹿児島県の有人島では奄美大島、屋久島に次ぐ大きさだ。屋久島が最高地点1,936mの山岳性の島なのに対して、種子島の最高地点は282mという平地性の島である。旧石器時代から人が住み、日本の水田稲作発祥地で、中世にはポルトガルから鉄砲が伝来したという歴史の島である。1966年には種子島宇宙センターが設立され、翌々年には国産第1号のロケットが打ち上げられた。

●私は島南部の旧南種子村という所で、昭和16年に生まれました。6人兄弟の四男で兄3人と姉、そして妹がいます。ルーツは鹿児島県南さつま市加世田ですが、祖父が若い時にこの島にやって来て、島娘と恋に落ちて居着いてしまったようです。祖父は藍染を手掛けていて、幼い私がいたずらをする、染めに使っていたかめ甕に入れるぞと脅かされました。戦争が始まると島への連絡船は便数が激減し、徳島からの藍が入荷しなくなってしまったので、祖父が始めた家業も続けられなくなりました。

父は村立青年学校卒業後、知人から「書生」の話があって上京しましたが、2年程で島に戻って国有林管理の仕事につき、そのあと司法書士になりました。父は社会党公認で50歳の時に町会議員になり3期12年務めました。

★太平洋戦争が始まったのは指宿さんが生まれた年だが、種子島が空襲に遭うのは戦争末期だった。幼かった指宿さんにも記憶があるという。近所の塩田に高い煙突が立っているのを、工場と誤認した米軍機が爆撃したのである。

●B29の音が聞こえると、ランプを消しました。爆音が近づくと、家族みんなで防空壕へ逃げたのを覚えています。

戦後しばらくは食糧難でした。指宿家は祖父の代からの新参者ですから、所有する田んぼも小さく、一家が食べるだけの米は獲れません。そこでさつま芋を米に混ぜたり、さつま芋の澱粉やそば

粉を団子にして食べました。ツワブキや竹の子は煮たり漬物にしたり、干して保存食にしたりしました。

★とはいえ自然豊かな島だから、おやつには事欠かない。野苺、桑の実、グミ、ヤマモモ、山ブドウ、バナナなどを採って食べた。南の島の自然の恵みが島民の貴重な食糧だった。ところで、指宿少年はどんな遊びをしていたのだろう。

●小学生時代、遊び道具は兄貴たちが作ってくれました。木の枝から縄を垂らしてブランコを作ったり、リング箱に丸太の車輪を付けた箱車をこしらえたり。ポロ布を丸めたボールと木の枝のバットも用意してくれました。冬は山鳥を捕るためのワナも作りました。メジロ捕りも遊びのひとつで、家で飼って鳴き声を楽しむのです。メジロを飼う竹籠も中学生になると自分で作りました。

●種子島で忘れられないのは台風です。中でも私が小学生の時にやってきたルース台風で、小学校の屋根が吹き飛ばされたのはショックでした。

★中学校を卒業した指宿さんは、親の説得も振り切って進学しなかった。病弱だった母を手伝うために農作業や家事の手伝いなどで日々を過ごしたのだ。そして妹が島内の高校を卒業するのを待ってから、鹿児島市内の高校に進学する。満20歳の高校1年生である。当然クラスメートはもとより3年生も年下だった。

●23歳で卒業して、すぐに上京して勤め始めました。28歳の時に武蔵野市にやってきましたから、もう46年になります。子供たちも武蔵野市で生まれ育ちました。いまは妻と二人暮らしです。種子島には一人の兄が残っていますが、私には武蔵野市が終のすみかです。「よくも遠くまで来たもんだ」。それが偽らざる実感です。

(聞き手・

編集委員 遠藤)



昭和26年 兄、妹、本人(小四10才)



## 理事研修 ～北区シルバー人材センター訪問～

2月13日(金)理事管外研修に行きまして参りました。研修担当理事間で半年以上に渡って研修先の絞り込み検討を重ね、家事援助や大掃除班、便利班を中心にした就業先拡大に顕著な業績を伸ばされている北区シルバー人材センターに決め、先方も多忙の中お引き受け頂き実施できました。清水事務局長始め多くの方にお手数をお掛けしました。特に今回の研修目的の家事援助等の事業拡大を中心に推進されてこられた矢吹さんには詳細にわたって説明頂きました。

事業推進に総合的に当たっておられる事に感銘しました。とかく就業者は指示書に基づき熟して行きがちですが、北区シルバー人材センターは全員が各方面を幅広く関連付けしながら事業を推進

していることです。家庭向けに対しては「スマイルサポート」という名称を付け、家事援助・調理・育児支援から室内清掃・大掃除、電球の取り替え、粗大ごみの搬出…と具体的に「してもらいたい事柄」を一目で解るイラストを入れたA2版のシルバー人材センター紹介(一家に1枚貼って置きたいと思う)を全戸配布しています。区内を3地区に分け、地区毎に広い視野を持ったコーディネーター育成がされています。矢吹さん曰く、その方々の献身的な活躍に助けられているとの事でしたが、廃校などを利用して実作業(片付け、収納)の研修も行っているとの事で、高品質で共有した能力を届けているのだと想像させられました。

(T)

## むさしのSCトピックス

- 26/12/01-02 安全パトロール (安全管理委員会)
- 26/12/05 家事援助基礎研修修了書授与式 (家事援助)
- 26/12/16 就業相談会 (適正就業委員会)
- 27/01/05 市長へ新年のごあいさつ (理事会) ①
- 27/01/30 仕事別グループリーダー研修 (研修委員会) ②
- 27/02/02 確定申告相談会 (事業部会)
- 27/02/13 北区SCへ役員視察研修 (研修委員会) ③
- 27/02/22 東京大マラソン祭りボランティア (社会奉仕活動委員会) ④ ⑤ ⑥
- 27/02/24 会員研修 (第5地域 地域シルバー人材センター)
- 27/02/25 市内小中学校への雑巾寄贈式 (社会奉仕活動委員会) ⑦
- 27/03/01 会員向け無料自転車点検 (安全管理委員会)
- 27/03/02 「親の家」へ訪問コーラス
- 27/03/04 産前産後支援事業フォローアップ研修 (家事援助)
- 27/03/24 東久留米市SC視察来所 ⑧



## ひろば

## 雑記

境南町 石井 利子

我が家の小さな庭に花も実もつかない柚子の木の鉢が数個ある。それは蝶の幼虫のエサの木です。

以前友人に「蝶は育ったところに戻って来るそうよ」「手をひろげると蝶がとまるって!」私はその話を信じて、毎年蝶が飛ぶころは、おいでおいでと呼んでみる。あの小さな目で、何を認識しているのか?私の廻りをひらひらと飛んで遊ぶ…指にはちみつでもつけるととまるのかな?投稿することはとても勇気がいる事でしたが、詩人の高橋順子さんの記事で素材は身近にある、恥ずかしがらずに書いて、見てもらう。そんな言葉に後押しされて

## 花と蝶

ふあり、ひらりと飛ぶ蝶に  
ちいさなかどを切りとって  
止まれとせがむ野すみれに  
吹いたそよ風いとおしい

ふあり、ひらりと飛ぶ蝶に  
小さなつぼみ紅をさし  
止まれとさそうひなげしの  
明日は散る花風の音

ふあり、ひらりと飛ぶ蝶に  
小さな夢を一人見て  
止まれと言えず白百合の  
あだな紅の粉風に舞う



話しは変わって、この歳になるまで歌ったこともない演歌にふれて、よく問題にならない事と思う程、演歌には同じようなフレーズの歌がたくさんある…つたない詩も誰か♪をつけて歌ってくれたら演歌になるかな…傲慢な考えですが、演歌入門…などと悦に入ったりしています。

## 編集後記

地方の田舎の慣わしで、誕生日前に歩いた赤ちゃんには、紅白の一升餅をつき唐草模様の風呂敷で包み、誕生日になると背負わせ歩かせるのです。とこ、とこ、とこと5歩も歩いた娘に、なかなかの健脚になると、じいちゃんの言った言葉を思い出すのです。

そんな娘が『東京マラソン2015』で42.195kmを完走できたのは、母娘ともに幸せです。

私はラジオ体操と市報の配付で、体力を維持させ、いつまでも元気で過ごせるよう願っています。(e)